

図2 種苗育成試験1終了時の体重頻度分布

A・B殺菌区、C・D海水区、E・F鶏糞区、G・H鶏糞+ランソウ区

留りであった。成長を増重倍率で比較すると殺菌区と海水区で約1.5倍、殺菌区と施肥区では約2倍の差があった。餌料効率は施肥区4池のうち3池で100%を越した。

〔試験2〕

1) 方法

2㎡コンクリート水槽（水深50cm）8面を使用し、次の4区を各区2面ずつ設けた。試験1との違いは、海水区で海水を張ってから種苗を入れるまでの期間を短くしたことである。

殺菌区：種苗の池入れ前日に海水を張り、カルキ10ppmで殺菌した。

海水区：種苗の池入れ前日に海水を張った。

鶏糞区：池入れ1週間前に海水を張り、施肥（100g/t）を行なった。

鶏糞+ランソウ区：池入れ1週間前に海水を張り、ランソウの種を入れ、施肥（100g/t）を行なった。

各池にはP₂₆～P₂₈（平均0.032g）のウシエビ各200尾を放養した。供試エビは当水産試験場で種苗生産したものをを使用した。飼育方法は試験1と同様に行なった。試験期間は昭和61年8月12日から9月11日までの31日間であった。

3) 結果と考察

飼育結果を表2と図3に示した。歩留りは、鶏糞+ランソウ区のうち1区が89%とやや低くなった以外はいずれも98～100%と高歩留りとなり、差は見られなかった。鶏糞+ランソウ区の1区が低くなったのも、試験期間中の9月5日に通気事故が起り、そのためのへい死があったからである。試験1と2の歩留りに差があったのは、試験1に用いた種苗が小さかったことと輸送による疲れによるものと思われる。成長を増重倍率で比較すると殺菌区と施

表2 種苗育成試験2の結果

	無 施 肥 区				施 肥 区			
	殺 菌 区	海 水 区	鶏 糞 区	鶏糞+ランソウ区	殺 菌 区	海 水 区	鶏 糞 区	鶏糞+ランソウ区
放養月日	昭和61年8月12日							
尾 数(尾)	200							
総重量(%)	6.4							
平均体重(%)	0.032 (P ₂₆ ~ P ₂₈)							
終了月日	昭和61年9月11日 (飼育日数31日)							
尾 数(尾)	199	198	196	200	199	200	197	179
歩留り(%)	99.5	99.0	98.0	100	99.5	100	98.5	89.5
総重量(%)	170.3	145.5	151.6	122.2	322.2	417.4	292.2	282.4
平均体重(%)	0.86±0.44	0.73±0.36	0.77±0.46	0.61±0.37	1.62±0.56	2.09±0.69	1.48±0.67	1.58±0.60
増重倍率	28.7	24.5	25.8	19.1	50.6	65.2	46.4	49.3
不明量(%)	0.4	0.8	1.6	0	0.83	0	2.3	16.9
日間増重率(%)	11.44	10.88	11.05	10.07	13.49	14.43	13.18	13.40
総投餌量(%)	383.5	383.5	383.5	383.5	383.5	383.5	383.5	383.5
餌料効率(%)	42.8	36.5	38.3	30.2	82.6	107.2	75.1	76.4
水 温(°C)	29.4±0.62	29.4±0.71	29.4±0.68	29.2±0.65	29.2±0.56	29.3±0.52	29.5±0.52	29.7±0.52
塩 分(‰)	23.5±1.65	22.9±1.31	22.0±1.57	23.1±1.01	22.3±1.02	21.5±0.74	20.3±0.69	22.6±1.31

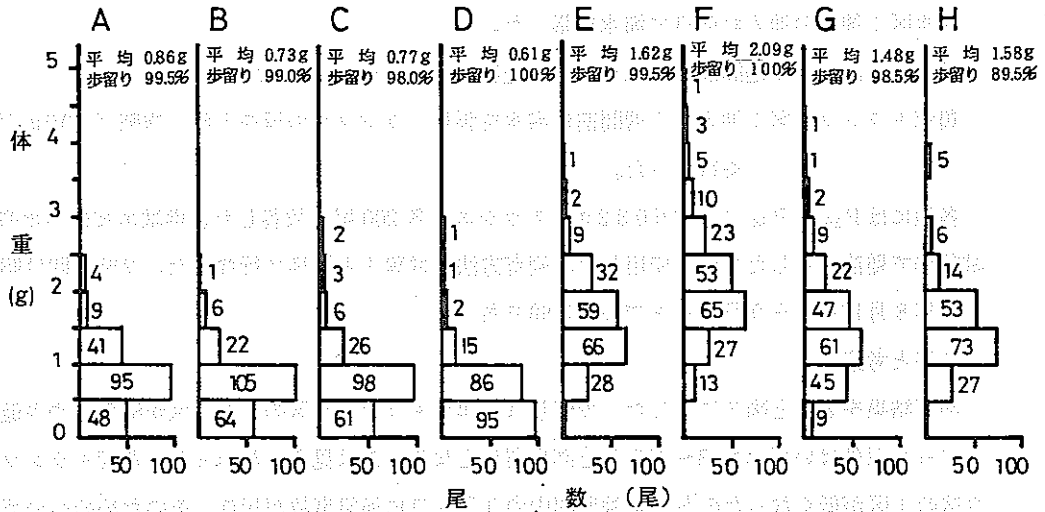


図3 種苗育成試験2終了時の体重頻度分布図

A・B殺菌区、C・D海水区、E・F鶏糞区、G・H鶏糞+ランソウ区